

問い

①は、難しいという話だが、遠隔手話通訳システムと繋ぎ、端末があればできない話ではない。空いている他地区の手話通訳者と申請ができていれば、向こうの画面に映るわけなので、可能と考える是非研究をと思うが。
②のZoomで繋ぐのは、地元通訳者がいれられない話でもあるので、これは全くできませんと拒否しないで、研究、検討してほしいが。

答え

いずれの方法についても、やはりまずは手話通訳者の方がいなければいけない。また、町の人員についても、災害時において他の業務もする中で配信人員確保が必要。従って、現段階では運用については難しい。

問い

以前の一般質問で、避難所へのコミュニケーションボードやホワイトボードの設置について質問し検討することであったが、その後は。



答え

コミュニケーションボードではないが、令和元年9月にコミュニケーションクリアファイルを購入し、観光振興センター及び案内所に合計400枚を配布すると共に、避難時にも活用するため中央公民館や木もれ陽の里にも100枚ずつ配布。
ホワイトボードは二次避難所に指定されている施設には既に整備されていたため、避難時にはコミュニケーションツールの1つとして活用。災害時だけではなく、町では聴覚障がい者とのコミュニケーションを円滑に行うため、本年6月、役場窓口コミュニケーションボードを設置。このコミュニケーションボードは職場内の電子掲示板で周知し、各課等でプリントアウトすることで、どの町施設でも利用できるようにした。最近では、新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場の受付等へも設置し活用した。

問い

外国の方も第二避難所には来るわけなので、例えば、風越総合体育館や中部小学校の第2避難所に設置してもらいたい。

答え

先ほどのファイルは、中央公民館、木もれ陽の里に100枚ずつ設置。二次避難所は、必要に応じて配布をしていく。

公明新聞の御購読をお願いします。

(日刊1ヶ月1,887円、日曜版293円 お得な電子版は日刊月額1,500円、日曜版250円です！)

お問い合わせは→川島さゆり TEL 080-9804-7656 までお願いします

さゆり通信

発行：川島さゆり 軽井沢町大字長倉 4280-5 TEL 46-2135

ごあいさつ

昨年は、皆様には大変にお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナワクチン接種も町内8割の方が二回の接種が済み、年末からは医療関係者から3回目が始まっています。

今後、飲み薬も開発されることと思いますが、変異株も出て来ておりますので、引き続き「手洗い・うがい・マスクの着用」等、感染対策を十分してお過ごし頂きたいと思います。

さて、本年は公明党にとりましても立党60周年という佳節を迎えます。党創立者が、庶民の切実な願いと期待、すなわち衆望を担う公明党議員としての使命を明確にされた「大衆とともに」の立党精神を、再度しっかりと胸に刻み、私自身前進していく決意でございます。

皆様方には、本年も1年間、大変にお世話になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



2021年12月会議 一般質問から

「通学路の危険な横断歩道について」を質問!!

危険な交差点2カ所について、区長さんや住民の皆様からも要望が出ているにも関わらず改善策が実らず、事故が絶えません。特に「通学路」という事で、まずは「お子さんの命」を守って欲しいと多くの皆様から御相談を頂きましたので、この交差点の検証と具体的な改善策を質問しました。



イラスト：斉藤暁雄

問い

新幹線側道から中部小学校通りと交わる交差点で、この場所は、およそ月一回は事故が起こる事故多発地点。以前より、信号をつけてほしいとの住民要望、区長さんからも警察の方へ要望しているが。

答え

信号機設置の要望は、過去に軽井沢警察署へ、住民、地元区長から寄せられている。軽井沢警察署と県警察本部交通規制課で現地確認を行ったところ、歩行者の待機場所の確保ができない箇所があることや、新幹線の線路供用部分が低いことで、県警察本部交通規制課の信号機の設置基準である車道から灯火部分までの高さが5.6メートル以上必要という基準を満たすことはできないことから、設置に至っていない。町道側には、止まれの電光表示や路面標示、横断歩道の設置など対策は取っているが、通学路で子どもが大勢通る交差点であるため、今後も関係機関と連携をし、交通安全対策について検討していきたいと考えている。



問い

通称農協通りと国道との交差点でローソンの所で死亡事故が複数起きている。こちらは信号がついているにも関わらず、右折左折時間が短く特に出勤や帰宅時間帯に焦った結果、死亡事故に繋がっており、過去には、命は助かったが、お子さんが車と衝突し飛ばされる事故も起きている。確かに横断歩道での左右注意の看板が出ているが、根本的な原因が検証出来ていないが。

答え

中軽井沢西交差点については、6月14日に、青信号で横断中の歩行者がローソン側から右折してきた普通乗用車にはねられた交通死亡事故の発生を受け、6月28日に再発防止のための関係機関による現地診断及び再発防止検討会を開催した。検討会の中で歩車分離式信号の導入や、右折レーン及び右折信号の導入の様々な意見があったが、事故発生の中軽井沢西交差点を対策する場合、交通渋滞を助長してしまう可能性があることから、中軽井沢駅前交差点の対策も併せて考えていく必要があるとの方向性となっている。現在、中軽井沢駅前交差点及び中軽井沢西交差点の改善について、軽井沢警察署と佐久建設事務所で検討を進めている。



©KOMEITO

問い

渋滞対策というのは、車社会の話。ここは通学路なので、まずはお子さんの命を守る、こういう社会を軽井沢で作っていかなくてはいけない。車中心ではなく「お子さんの命を守る対策」をしっかりと町で指針を作ってやってもらいたい。

答え

歩行者優先のまちづくりは、当然のこと。引き続きこの2カ所に限らず交通対策、また子どもの安全を守る対策については、関係機関と連携を図り、取り組んで参りたい。



©KOMEITO

「災害時における聴覚障がい者への情報伝達について」を質問!!

地震発生時や近年増加しているゲリラ豪雨等大雨による被害、台風情報等テレビやラジオからの気象・防災情報をはじめ、いざという時の避難情報は命に関わる重要なものです。聴覚障がい者にとっては、画面に表示される文字や記号に頼らざるを得ず、アナウンサーや気象庁専門家等の音声による情報は伝わりにくい状況です。そこで気象庁では、昨年7月1日より震度5以上の地震・気象に関する特別警報の発表、台風や大雨が発生又は予想された場合の緊急記者会見では手話通訳者を配置していますが、これは緊急記者会見に限られるため、その他の臨時記者会見等の情報は伝わりません。2019年台風19号災害で千曲川決壊時に、聴覚障がい者の方が大変困った事案がありました。



©KOMEITO

問い

町公式YouTubeチャンネル等を活用し、手話通訳を配置した適切な防災情報をライブ又はストリーミング配信は。また、今年4月より導入された県の「遠隔手話通訳システム」との連動は。

答え

ユーチューブのライブ配信体制を整備することについては、限られた人員での災害対応となるため難しい。ストリーミング配信は、災害時の対応が同一ではなく、臨機の情報発信が必要なことから、ストリーミング配信するために事前に動画作成をしておくという運用は難しい。

①配信された動画を手話通訳者に見せ、それを翻訳し利用者に伝える方法だが、迅速性に欠け、手話通訳者及び配慮が必要な方に配信動画を見せるための端末が複数台必要となる。

②配信時に手話通訳者とZoom等で中継し、通訳した情報を災害情報と同画面に映し出す方法だが、技術的には可能だが、手話通訳者の確保、ライブでの発信による正確性等に懸念がある。

①②共に、配信人員の確保が必要となるため、実際の運用は難しい。